

FIVE VALUE ASSET

Monthly Newsletter

5バリュー通信 Vol.8

Date of issue: 2025.06.16

平素よりお世話になっております。5バリューアセットでございます。今月もマンスリーレターとして5バリュー通信をお届けいたします。マーケットニュースのご案内の他に、時事に関するコラムなどを月に1回お届けいたします。お楽しみいただけますと幸いです。

Interview メンバーの言葉



エグゼクティブ・ディレクター
団 いどむ

「量」(会社の規模)よりも「質」(業務の内容)にこだわった仕事をして人生を過ごしたい、という熱い想いを秘めたメンバーが集結している弊社は、2021年6月2日の近畿財務局への許認可(登録)完了により業務を開始し、今月でちょうど丸4年が経過、5年目に突入となりました。私もこの証券業界に足を踏み入れ、はや四半世紀。この間、所属会社に関わらず、長く変わらずお付き合い頂いているお客様も中にはいらっしゃいます。年輪を重ねるように、お客様も10年20年と年を重ねられ、こちらも同じように20代だった私も40代後半となりました。お客様と共に年を重ねていけるという喜び。継続こそ力の源泉。感謝と敬意と信頼の賜物であります。

この金融の仕事というのは転勤が度重なるのが通例でございますので、こういった働き方・生き方ができる会社というのは、なかなか無いように思いますが、それ故より一層、自覚と覚悟が求められる状況だとも言えます。自由と規律は表裏一体。だからこそ、この恵まれた環境に精一杯感謝して身を引き締め、その中で、我々だからこそできる価値をいかにご提供できるか。常に自問自答し続けながら、これからも日々精進して参りたいと考えております。

Topics 今月のトピックス



6 Jun 2025

- Seminar Report
- Bond Vigilantes
- Daily Schedule



- ・第8回オフサイトセミナー
- ・債券自警団
- ・マーケティング&プロダクトのチームの1日

Seminar Report 第8回オフサイトセミナーリポート



2025年5月23日に第8回オフサイトセミナーを開催しました（会場：東海東京証券 日本橋オフィス）。今回は大阪の枚方市樟葉に拠点を置き、学習塾経営、飲食店経営、EC ショップ運営、セミナー・コンサルティング事業を展開するグレートティー・チャーブ株式会社より、羽賀ヒカルさん（神道研究家）。著作に『神様に愛される一杯の『お茶』習慣』（2017年、自由国民社）を持つ、こがみのりさん（茶肆ゆにわ店長）。前号で紹介した映画『美味しいごはん』の主演ちこさん（御食事ゆにわ店長）の3名にお越しいただきました。

これまでのセミナーではおひとりの講師による単独形式で、思想・哲学、偉人、歴史、社会的なコミュニティの構築や医療問題などが主題として扱われてきましたが、今回は「生命力を高める日常の実践」という演題で3名の講師の方に登壇いただき、「なぜ、今、生命力が大事なのか？」（羽賀さん）、「生命力を高める『お茶』」（こがさん）、「食の力」（ちこさん）という副題で、それぞれご講演をいただきました。

今回はこれまでのような講義形式の座学ではなく、日常に活かせる実践を取り入れたワークショップ的な内容も含んでおり、羽賀ヒカルさんのお話の中では「最近心を動かされた」ことについて参加者同士でシェア・フィードバックを行うワークや、低下することで感動することが減少したり、怒りっぽくなったり、孤独感を強く感じるようになる「生命力」（高くなれば逆の影響が生じます）についての考え方などをレクチャーいただきました。



こがさんのお話では、家庭や会社におけるお茶を介したコミュニケーションの促進例や、古来では薬として用いられ、織田信長と千利休が活躍した安土桃山時代では「御茶の湯御政道」としてお茶が政治に使われるほか、茶道が禅的な精神修養としても高い人気を誇っていたという話、身体の構成要素を「気血水」だと捉える観点や、陰陽五行と五臓の関係性など、東洋医学の考え方や薬としてのお茶を飲んで心身を整える=生命力を高めるためのお茶の選び方や、実際に台湾の原生茶（山間部のお茶の樹から採取され、銘柄名をもたない）お茶をいれ、一般飲料茶との飲み比べなどを体験しました。



開運料理人として執筆活動や食と生き方をテーマにした講演活動などを行うちこさんからは、食を中心的なテーマに「食事によって人生が変わった」という方々の体験談や、食べるという当たり前の行為を改めて捉え直したり、食を変えることが人間関係や性格などにも様々な影響をもたらすことに関するお話をいただきました。

お話の中で特に印象的だったのは、ちこさんは栄養士科の出身なので食べ物を数値として捉える習慣が身についている一方、あえて具象的な観点を外して“ひかり”（思いや愛情などとも言い換えられる要素）のかたまりという抽象的なイメージで食べ物を捉えるという観点で、数字という具象・“ひかり”という抽象として食について考えるという発想が非常に新鮮でした。気持ちや思いを込めて「温かい」状態にすることは、ごはんを作ることに限らず誰かの為に何かをする（弊社のビジネスでいえば運用提案やアドバイス）際にも重要なものとなるため、日々の取り組みの中で心がけるべきと感じさせられました。

このところ「債券自警団」というワードを良く目にします。自警団というと、関東大震災直後の混乱時における忌まわしい事件など、あまり良くないイメージもあろうかと思いますが、この「債券自警団」のそれは左程物騒なものではありません。具体的には国債を売り（もしくは買いを手控え）高い利回りを要求することで、国家の財政規律の緩みに警鐘を鳴らす投資家のことを指します。もともとはウォール街のベテランストラテジストであるヤルデニリサーチ代表のエドワード・ヤルデニ氏が1983年に生み出した用語（Bond Vigilantes）です。当時のアメリカはレーガン政権下、軍事費の増大と大規模減税いわゆるレーガノミクスによって財政赤字が急速に膨らんでおり、10年金利は83年には12%台、84年5月には14%近くまで上昇していました。債券投資家にとっては悪夢のような環境であり、自警団を結成したくなつたのも無理はありません。

その後、「債券自警団」は折に触れて出没するようになります。有名なのは、クリントン政権時代の債券大虐殺（Great Bond Massacre）の時でしょう。就任の年93年10月には5%台であった10年金利は、翌94年11月にかけて8%強まで上昇、止まらない財政支出の拡大が背景の1つであったとされています。同年の中間選挙で、均衡財政・減税・福祉の削減を謳う共和党に大敗したこともあり、クリントン政権は財政赤字削減に方向転換を余儀なくされ、ようやく金利は落ち着きます。結果論ですが「債券自警団」が暗躍したといわれるゆえんです。



最近では、2022年英国ト拉斯政権時に出動したのが記憶に新しいところです。就任直後の9月23日に政権の目玉である大型減税策「ミニ・バジェット」を発表すると、インフレ下での財政悪化を憂えた「債券自警団」は英國債の売りで反応、22日には3.5%程度だった米国5年債利回りは27日には4.7%近くまで急上昇（価格が大幅下落）、結果ト拉斯内閣は10月25日に総辞職を余儀なくされ、在任49日と英史上最短の内閣となったのです。

さて、足元「債券自警団」の出没が囁かれているのは何故なのでしょうか。1つには5月22日に米議会下院が「1つの大きく美しい法案（One, Big, Beautiful Bill Act）」を可決したことに依ります。本法案は、トランプ政権の1期目に導入し今年の12月末に期限の切れる個人所得減税の恒久化を柱とし、現在特別措置で乗り切っている債務上限の引き上げも盛り込んだものです。今なお上院で審議中の同法案は、財政悪化に直結するだけに「債券自警団」としては放っておくわけにはいきません。実際この前日21日に行われた20年米国債の入札は不調に終わり、0.1%以上利回りが急騰しました。既に「債券自警団」はウォーミングアップの段階ではないのかも知れません。

また今回の特色として「債券自警団」の存在が複数の市場で見え隠れする点が挙げられます。その1つが日本国債市場です。2013年に日銀が「量的・質的金融緩和」の下、日本国債の大量買入れを始めて以降、ほぼ無風状態が長く続いたため、「債券自警団」にはあまり縁のなかった市場でしたが、2024年7月以降日銀は国債買入れ減額に転じ、また物価もインフレ傾向が定着、状況が変わってきています。GDP比債務残高が200%を優に超え、先進国でワーストの日本は、「債券自警団」に目を付けられても致し方ない存在なのです。

にも拘わらず、参院選前の人気取りで消費税減税や給付金の議論が絶えず、「債券自警団」が眉を顰めることとなっているのではないかでしょうか。果たして5月20日に行われた20年日本国債の入札は、落札価格の平均と最低の差が1円14銭と1987年以来の大不調に終わり、22日にかけて30年、40年日本国債の利回りは3.185%、3.675%とそれぞれ過去最高を更新しました。先に挙げた21日の20年米国債入札の不調は、この日本国債入札がトリガーになったとも言われています。

では、我々市井の投資家はこの状況にどう対処すべきなのでしょう。あくまでも過去の例ですが、「債券自警団」が大進撃しその結果時の政権が財政拡大に歯止めをかける政策に転換した際には、概ね債券投資家にとって好ましい結果となっています。トランプ大統領がすぐに緊縮財政に舵を切るとは思えませんが、ここは1つ「債券自警団」のお手並み拝見といったところではないでしょうか。

Daily Schedule マーケティング&プロダクトチームの一日

本欄では、マーケティング&プロダクトチームの1日(例)をご紹介します。

5:00 - 6:00

起床、日経新聞はじめ各紙に目を通す。
各国の経済指標発表スケジュールなどを再確認。



6:30 - 6:45

出社後直ちに約 500 銘柄からなる債券引け値表をアップデート。前日と見比べて、特異な値動きがないかどうかを確認。全社員に向けてメール配信。

7:00 - 8:30

他のメンバーも随時出社。情報ベンダー各社より海外市場動向、新発債情報、ニュース等をチェック。

8:30 - 9:00

市場情報ミーティング。全社員で情報を共有し、新しい投資アイデアについて全社員で論議する。償還期間、クレジット、利回り、流動性等を確認して、お客様にお勧めすべき銘柄は全て網羅できているのか、お客様の保有債券についてより有利な条件で裁定取引（割高銘柄を売り、割安銘柄を買う、ポジションの経済的效果を変えず／あるいは改善し売買益を得る機会）可能性はないか、時には激しく意見を交換します。

9:00 - 11:00

ミーティングの内容に基づいて、
お客様向けの説明資料作成等。



11:30 - 12:30

外資系証券とパレスホテルにてランチミーティング
外資系大手金融機関だから知り得る市場情報等について
聞き洩らさないように。彼らも日本富裕層顧客の動向について興味津々です。

13:30 - 14:30

お客様向けフォローアップ資料についてチーム内編集会議。
当社では、お客様が保有する債券について、買付後の
継続的な情報提供に力を入れています。その為に最新情報
をまとめたフォローアップ資料を定期的に作成してお
客様にお届けします。

16:30 - 16:45

ロンドン市場のオープンを待ってお客様からのオーダーに基づき外債のディール。4業者と価格を引き合いベ
ストプライスで Done。複数の金融機関とパイプを持ち、
世界の主要市場から最もお客様に有利な条件を見つけることは、当社ならではの大きな特徴です。

17:00 - 17:30

今日一日、お客様に最高のご提案ができたのかを思い
返し、明日の市場の平安を祈りながら、各々退勤。

Member's note 編集後記

今年の春は例年にも増して寒暖差が激しく、肌寒い日の後に急に暑くなるなど、体調を崩す方が多かった
ような気がします。各地で梅雨入りとなっていますが、スコールを思わせる大雨と思えば、その後、急に
晴れの日になるなど落差の大きな日々が続きそうです。トランプ関税に端を発する市場の大変動も一息つ
いたように思えますが、引き続き経済環境や市場状況に注意を払いつつ、お客様に適切なアドバイスがで
きるよう社員一同努めてまいりたいと思います。

山村浩之（副社長 兼ヘッドオブ東京オフィス）



5バリューアセット株式会社 金融商品仲介事業者 近畿財務局長（金仲）第437号

各商品等にご投資いただく際には商品毎に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。又、各商品等には価格の変動等による損失を生じる恐れがあります。各商品等へのご投資にかかる手数料等およびリスクについては、当該商品等の契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等をよくお読みになり内容について十分にご理解ください。

この通信は、当社ホームページに掲載するほか、当社セミナーにご参加いただいた方、業務提携をいただいた方、およびIFA口座をお申し込みいただいた方に送付しております。
送付の停止・送付先変更をご希望の場合は、大変お手数ですが下記のメールにご連絡ください。送付の停止・送付先変更には、少々お時間をいただく場合がございます。

発信者：5バリューアセット株式会社 クライアント・リレーション

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-4-1 丸の内永楽ビル20F

newsletter@5valueasset.com